

安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

平成29年 秋 第52号

あかり

A K A R I

看護師さんを
募集しています

てんかんの外科治療に役立つPET	1
第36回サマーショートボランティア	2
認知症疾患医療センターの実績	3
たのしい園芸	3
夏の重心病棟行事	4
夏祭り	6
外来再診の診療体制/医療連携室	7
はじめて当院を受診される方へ/当院へのアクセス/本	8

てんかんの外科治療に役立つPET

当院では薬物治療に抵抗性のいわゆる難治性てんかんの方に外科治療を検討することがあります。手術の前にてんかん発作の焦点(原因となっている場所)を正確に見つけることが重要で、そのために画像検査は必須です。

従来のMRIなどの画像検査は、脳の「形」の異常から発作焦点を探しますが、一方で、脳の「働き」に着目して異常を探す画像検査もあります。PET(ペット)検査はその一つで、よく使われるのはFDGと呼ばれるブドウ糖に似た薬です。ブドウ糖に微弱な放射能を出す成分を組み込んだものですが、体には特に害はないと考えられています。この薬を注射するとブドウ糖と同じように脳の神経細胞に取り込まれ、これによって脳の活動状態を調べることができ

ます。

実際のPETの画像では脳がレインボーカラーで色づけられます(図1左)。脳の表面の神経細胞は通常は赤色になりますが、黄色から緑そして青となるにつれて薬の集まりが少ないことを表しています。薬の集まりが少ない、すなわち糖分の取り込みが少ないことは、脳細胞の活動が低下していることを意味します。焦点では脳細胞の活動が低下していますので、この場所を検索することで、てんかん発作の病巣を特定する手がかりとします。

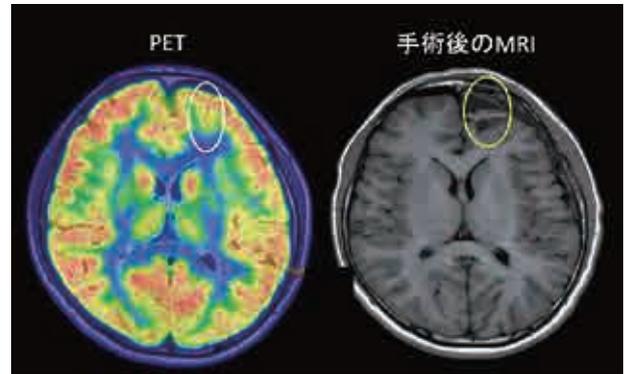
注意すべきは、PETでは焦点のみならず、周りの広い範囲でも糖分の取り込みが低下している場合が多いことです。したがってPETのみでは焦点の範囲を正確に決定することはできません。あくまで発作

症状や脳波の結果などとあわせて総合評価を行うことが重要です。逆に、糖分の取り込みが低下している場所がせまい場合には、焦点の範囲をしばり込むことにつながります。理想的にはその部分のみを切除して発作を抑制することができる上に、周りの正常な脳組織を温存することも可能になります。(図1右)

図1左のPETで脳の溝に一致して薬の集まりが少なくなっています(白い丸で囲んだ場所)。MRIで皮質形成異常(生まれつきの病変)と診断され、発作症状や脳波などから同部が発作焦点として疑われていましたが、PETでさらに診断精度を上げることで、

結果的に小さな範囲(黄色の丸で囲んだ場所)を手術で切除するだけで発作が消失しています。

(放射線科医長 近藤 聡彦)



(図1)

第36回 サマーショートボランティア (医療福祉相談室 中村 成美)

サマーショートボランティアとは、静岡県ボランティア協会が毎年夏に主催しているボランティアです。夏休みを利用したボランティア活動体験プログラムで、静岡県内の268箇所の社会福祉施設や社会教育施設でのボランティア活動の受入れをしており、当院も受け入れ先の1つとなっています。今年の参加者は高校生12名と社会人の方1名の13名の方が夏休みを利用して参加して下さいました。活動病棟は神経内科病棟、てんかん小児病棟、重症心身障がい児者の病棟で、4日間活動していただきました。活動内容としては、車イスの清掃や窓の清掃等の環境整備、また食事介助等の患者様との関わりで、ボランティアのみなさんは、一生懸命に取り組んでくださいました。清掃をお願いした車イスや窓はピカピカになり、車イスを利用している患者様もとても喜んで笑顔になり、スタッフもボランティアの皆様に感謝です。参加して下さった方の中には、将来看護師を目指している方、漠然と医療の現場で働きたいという気持ちを持った方、何となく興味を持って参加して下さった方など目的は様々でしたが、みなさん意欲的に活動して下さいました。

ぜひ来年もたくさんの方にサマーショートボランティアに参加していただき、病気や障がいについて知ること、理解するきっかけになること、普段できない体験や経験を通して、これから先の生活に役立てていただけたらと思います。ご興味のある方は静岡県ボランティア協会へお問い合わせ下さい。

○参加者の感想紹介

<将来の職業選択について>

- ・看護師の仕事近くで見えて色々な仕事内容があることがわかってよかった
- ・自分の将来の進路を考える良いきっかけになった
- ・看護師を目指して頑張りたい

<病気・障がいについて>

- ・重い障がいのある方を目の前にして、はじめは自分と違うことに戸惑いや不安を感じたけれど患者さんと関わる中で笑顔になってくれてとても嬉しかった
- ・言葉を話せない人とコミュニケーションをとれないと思ったが話かけると笑ってくれて楽しかった

サマーショートボランティアの活動を通して、将来の進路の選択に前向きに考えるきっかけとなったこと、また病気や障がいのある方のことを考えるきっかけになったことをとても嬉しく思います。

○病棟のスタッフからの感想紹介

- ・普段、手の回らない場所の清掃をしてもらって助かった
- ・とてもまじめに作業をしてくれてよかった
- ・患者さんも笑顔になってよかった
- ・またボランティアに来て欲しい

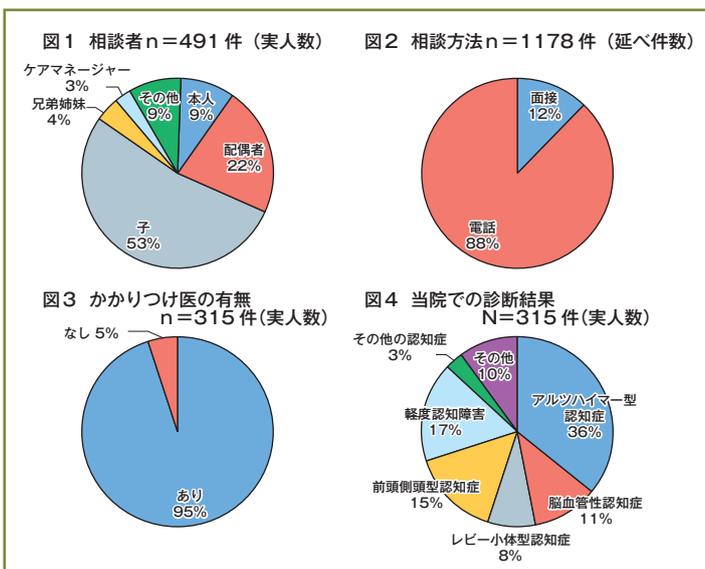
病棟からは、感謝の声が多く聞かれました。参加者のみなさんは初めての場所とても緊張していたと思いますが、普段の生活では味わえない良い経験が出来たのではないかと思います。私たちスタッフも、とても良い刺激を受けました。参加して下さいました皆さん、ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

認知症疾患医療センターの実績

(診療部長 小尾 智一)

当院は、平成26年2月に静岡市から「認知症疾患医療センター(以下当センター)」の指定を受けました。当センターでは、主に認知症の鑑別診断をおこない、身体合併症や周辺症状にもかかわらず医や市内の病院と連携して対応しています。

特に、専門医療相談では本人、家族、関係機関(地域包括支援センター、介護保険事業所等)からの認知症に関する医療相談に対応するとともに、状況に応じて適切な医療機関等の紹介をしています。平成28年度には491件の相談をいただきました(図1)。本人や配偶者の方からの相談よりもお子さんからの相談が多く、認知症に対する関心が若い方々に広がっていることが伺えます。相談方法はほとんどが電話ですが、直接相談に来られる場合もあります(図2)。その回数は、2回以上のことが多く医療機関受診や生活、介護など多くの内容が含まれていました。ほとんどの方がかかりつけ医をお持ちで(図3)、認知症を心配するとかかりつけ医の先生に相談されて当センターに電話していました。図4には、当センターに相談後、実際に受診された315人の診断結果を示しています。認知症と診断された方は合計73%で、診断後はすぐにお薬による治療や生活の調整、介護サービスなどを開始されたり充実させたりしています。また、認知症予備軍と



される軽度認知障害の方も17%いらっしゃいました。認知症には至ってなくても、本人および家族の皆さん方と相談して早期の治療開始や進行の抑制を試みています。

65歳以上の方々の25%は認知症とその予備軍である軽度認知障害であると推定されています。認知症の進行を遅らせたり長く家族と一緒に暮らせるようにするには早期発見と早期治療、そして早期の介護支援が重要です。認知症について心配なときは当センターにお電話ください。

認知症疾患医療センター

(電話 054-246-4608 相談時間: 平日 9:00~17:00
(土曜日、日曜日、祝日、年末年始(12/29~1/3)は除く))

たのしい園芸

(リハビリテーション科作業療法士 遠藤 広海)

園芸療法は社会経験の場として2012年11月20日より始まりました。種から芽が出て実を付ける過程は育てて初めて分かります。「一人で出来ない事もみんなで協力すればできる」そんな経験も実際に行って理解するものです。

当院の畑は四季折々、様々な顔を覗かせます。ニンジン、ジャガイモ、タマネギなど作ってきた野菜は数知れず、今は夏野菜の収穫シーズンで、ピーマンやナス、トマト、オクラが大きく育っています。

採れたての野菜の味は格別です。折角、育てた野菜ですから、自分で料理して食べたいですね。

発作があると「料理は危ない」と思われがちですが状態によっては料理も可能です。包丁の代わりにキッチンバサミを使い、ガスコンロをIHクッキングヒーターに代用する事で安全を確保することもできます。

野菜の成長に喜びを感じながら実生活でも活かせる作業プログラムをこれからも提供していけたらと思います。



夏の重心病棟行事

B1病棟



8月29日に「バイキング」を行いました。テーマは「夏祭り」。食事の前には全員で「お祭りマンボ」を踊りました。メニューは祭りをイメージしたたこ焼きやお好み焼き、じゃがバター等。患者様の様子からおいしさや選ぶ楽しさが伝わってきました。 (療育指導室 望月 恵)

B2病棟



前菜2種



個室から見える景色



デザート



パスタ



スープ

8月16日にB2病棟では外出行事で、ホテルアソシアのレストラン「アルポルト静岡」さんに食事をしに行きました。患者様に合わせた食事を提供していただき、普段とは違う場所で違う食事をするので楽しいひと時を過ごすことができました。レストランの個室からは駿河湾まで見渡せるととてもいい景色ですが、当日は天気が悪くしっかり見るできませんでした。 (療育指導室 大場 みなみ)

C1病棟



8月22日、C1病棟では毎年恒例のお化け屋敷を行いました。C1病棟の職員がお化けになり、患者様がお化け屋敷をめぐるという形で、今年はオリジナルストーリーのもと、ミッションもあり、患者様もとても楽しんでいたり、いつもとは違った病棟の雰囲気に驚いている姿がみられました。こういった季節ならではの行事を、患者様に体験してもらうことを大切にしていきたいです。

(療育指導室 相川 萌子)

C2病棟



C2病棟では、8月8日にすいか割りを行いました。すいかを叩いたり、写真を撮ったりしました。その後、職員ですいかをミキサーにかけ、患者様にすいかの味やにおいを楽しんでもらいました。おいしいと笑顔の患者様や、においをかいで鼻をぴくぴくと動かしている患者様がいてみんなで楽しむことができました。

(療育指導室 小池 菜生)

夏祭り



A4病棟 夏祭り

毎年恒例の夏祭りが開催されました。

今年は『倒・華・跳』というワードだけカードで提示し、何を行うかは当日まで秘密という新たな試みを行いました。

ボーリング・花火を背景に様々な小道具を使って変装し写真を撮るコーナー・トランポリン、天井に花火の情景を映し出すシアタールームを設け最後には盆踊りを踊りました。

参加した患者様のご家族からは「花火が好きなので、とても喜んでいました」とのご意見をいただき楽しい時間を過ごすことが出来ました。

(A4病棟 石川 起代)



A5病棟 夏祭り

秋の実りがおいしい季節になりました。日差しが強くなり本格的な夏がやってきた7月21日にA5病棟の夏祭りが開催されました。A5病棟入院患者様とご家族を対象に、季節感を味わい、楽しんでもらうための催しです。

6月から患者様とお神輿やうちわ作りをはじめ、ポスターやゲーム作りなど夏祭りの準備を一緒にしてきました。夏祭り当日は栄養課と連携し、かき氷やスイカ割りを提供しました。患者さまとスタッフの手づくり感あふれる輪投げや射的にうちわ。そして、かき氷やスイカ割りなど夏らしさを演出しました。デイルームの会場ではゲームやスイカ割りを頑張る患者さまの姿。それを応援するご家族の様子に微笑ましくなりました。さらに、患者さまがお神輿を担いで病棟内を練り歩きお祭りの雰囲気を感じることができて楽しいひとときを過ごすことができました。約1時間の開催でしたが、患者さまとご家族から「楽しかったよ。ありがとう。」とのお言葉をいただき、夏の良い思い出になったのではないのでしょうか。

夏祭り開催に際しては患者さまとご家族、また、A5病棟の先生方、栄養課、院内学級、療育スタッフなど多方面から多大なご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

(A5病棟 村瀬 貴宏)



外来再診の診療体制

てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

	月	火	水	木	金
第1診察室		山崎	中岡	山崎	白井直
第2診察室	久保田英			久保田英	
第3診察室	今井		井上		近藤
第4診察室		鳥取	日吉		日吉
第5診察室	池田仁	池田浩	池田浩	寺田清	寺田清
第6診察室	芳村			芳村	松平
第7診察室		荒木		美根	山口
第8診察室		西田	高橋		
第9診察室	重松			大谷	大谷

神経内科

	月	火	水	木	金
第10診察室	午前 寺田達	小尾	小尾		小尾
	午後 小尾				
第11診察室	杉浦	杉浦	寺田達		山崎/馬場國尾内(第4)

特殊外来

転倒予防外来	随時	小尾
認知症疾患医療センター	月・水	寺田達・小尾
遺伝相談	随時	高橋、小尾
禁煙外来	随時	池田仁
ねむけ外来	月	寺田清
包括的てんかん外科初診外来	火	白井

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、医療連携室(予約センター)を設置しています。ご利用ください。(平日)

TEL ■ 054-246-4580(初診)

054-246-1065(再診)

FAX ■ 054-246-4607

予約センターの受付時間

● 9:00 ~ 12:30 ● 13:30 ~ 17:00

E-mail ■ renkei@shizuokamind.org

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。

上記、医療連携室にお問い合わせください。

広報誌編集委員会

編集人■

寺田 清人 佐藤 美喜子 坪井 千浩

矢嶋 隆宏 佐倉 裕二 松田雄一朗

堀 友輔 高橋 輝 鈴木 健之

大山 敏生

発行■平成29年10月27日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山 886

TEL ■ 054-245-5446

FAX ■ 054-247-9781

URL ■ <http://www.shizuokamind.org>

E-mail ■ shizuoka@shizuokamind.org

はじめて当院を受診される方へ

◆ 診察は予約制になっています ◆

1 受診のための手続きは…

予約は、ご本人・ご家族から当院地域医療連携室(054-246-4580)へ、あるいは主治医の先生から当院地域医療連携室へ申し込んでください。その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,700円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

4 セカンドオピニオンについて

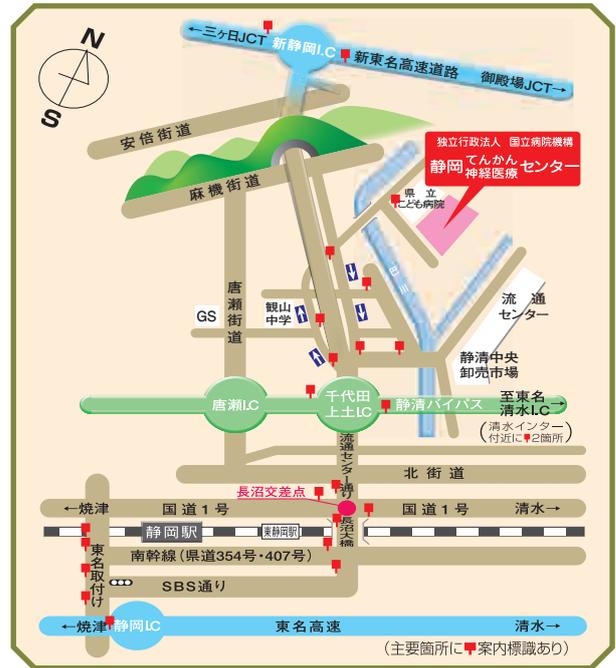
セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

5 静岡市認知症疾患医療センターについて

認知症の受診やご相談は専門医療相談 ☎054-246-4608

当院へのアクセス access

バスをご利用の場合	● JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の「静岡神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人360円、小児180円。
タクシーをご利用の場合	● JR静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2,500円程度。
お車の場合	東京方面から
	名古屋方面から
東京方面から	● 東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ約3分。所要約20分。 ● 御殿場JCTで新東名高速道路へ乗換。新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
名古屋方面から	● 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ約10分。所要約30分。 ● 新東名高速道路・新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。



本

● 抗てんかん薬ポケットブック(改訂第6版)

【日本てんかん協会、2016年】

禁忌、重大な副作用、重大な副作用疾患別症状、体内動態と主な副作用、相互作用、抗てんかん薬プロフィール、新規抗てんかん薬の開発状況、Q&A、識別コード(錠剤のみ)を掲載。

● 稀少難治てんかん診療マニュアル

～疾患の特徴と診断のポイント～

【診断と治療社、2014年】

稀少難治てんかんの特徴と診断のポイントから、検査、治療、予後まで詳しく概要をつかめるよう約3～4ページにポイントを絞った。発作時の脳波図、発作の鑑別フローチャート、鑑別疾患を比較した表をレイアウトし、視覚的に分かりやすく稀少難治てんかんを解説した。診断、治療のマニュアルの項目の冒頭には短く「ポイント」をまとめた。稀少難治てんかんにかかわる小児科医、神経内科医、脳神経外科医などに役立つ書。

● てんかん症候群(第5版)

～乳幼児・小児・青年期のてんかん学～

【中山出版、2014年】

てんかん学の「ブルーガイド」として世界的に普及している「Epileptic Syndromes(原書第5版)」の日本語翻訳版です。4版よりも10%以上ボリュームが増え、より詳しい内容になり、他では決して得られない極めて貴重なてんかん発作の動画付き。静岡てんかん・神経医療センターのスタッフが総力をあげて翻訳しています。

● てんかん専門医ガイドブック

～てんかんにかかわる医師のための基本知識～

【診断と治療社、2014年】

てんかん専門医試験を受験する医師のみならず、てんかんにかかわるすべての医師必携のガイドブック。概念や分類、病因、診断、検査、治療などの総論から、新生児から高齢者まで各年代別の重要なてんかんや遺伝子研究結果に基づく特殊てんかんの最新知識、外科治療などを解説した各論に続き、妊娠、運転、生活支援についても具体的に紹介。臨床てんかん学の内容をコンパクトにまとめた実践的な一冊。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- 1 てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- 2 ホームページによる情報提供 <http://epilepsy-info.jp/>
- 3 てんかん協会との連携
- 4 医療などの相談(予定)